矢作新報社　2019年11月15日(金)掲載

障がい者雇用サポート1周年

農園を借りて 7社69人働く

わーくはぴねす農園 愛知みよしファーム

障がい者雇用に積極的な企業への農園貸し出しや、企業と直接雇用を結ぶ障がい者のサポートをしている「わーくはぴねす農園愛知みよしファーム」＝みよし市明知町＝が、来月で開園一周年を迎える。先月4日には就労スタッフ、農園参画企業、地域福祉事業所による大感謝祭が行われ約250名が参加した。

同農園を運営しているのは東京に本社を置く㈱エスプールプラス。障がい者雇用を進めたい企業に代わって業務を提供し、障がい者のサポートを担っている企業だ。身体障がい者に比べて一般就労の場が少ない知的障がい者が働きやすい農園づくりを進め、今では全国17ヵ所に農園を展開。これまでに約1500人の障がい者雇用を生み出している。障がい者の定着率が92%と高いのも特徴だ。

みよし市は昨年7月、市内の障がい者の就労の場として同ファームを誘致し、市内採用の優先などを目的とした協定を締結。現在、パナソニックなど7社が農園を借り、69名の障がい者が働いている。このうち3割がみよし市在住者だ。

季節の野菜50種ほどを栽培しているビニールハウス内は、広く見渡せるよう低い位置にプランターを設置。また大型の農機具を使わない栽培方法を取り入れるなどの工夫もしている。収穫した野菜は、参画企業の社員食堂や社員配布に使われ、福利厚生や障がい者への理解向上にも役立っている。

障がい者は週に5日働き、月10万円ほどの給与を得られる。パナソニックと契約している豊田市在住の阿部寛さん（41）は、サポートスタッフから水やりや収穫作業を教えてもらい、黒豆やブロッコリーなどを育てている。「目標は楽しく長く働き続けることです」と嬉しそうだ。

障がい者の自立と地域コミュニティ創出につながる同社の取り組みは県内でも広がりを見せ、来月には東海市に県内4ヵ所目の農園が開園する。

今後はみよし市内の「子ども食堂」へ野菜を提供していく予定だ。

【地域記者　東伸子】

葉につく虫を捕る林有真さん（19・みよし市）。栽培する野菜の名をたくさん知っている